

建築土木工学科

キーワード

建築、建築家、建築士、建築設計、建築計画、意匠設計、デザイン、デザイナー、ワークショップ、リノベーション、集合住宅、住宅、交番、病院



准教授 / 修士（工学）

清水 俊貴

Toshitaka Shimizu

学歴

福井大学 工学部 建築学科、福井大学 大学院 工学研究科 建築学専攻 修了

経歴

富永謙・フォルムシステム設計研究所、清水建築設計店一級建築士事務所、東京デザイン専門学校講師、パンタンデザイン研究所講師、六本木アートナイト2015参加アーティスト、ディスカバリークリエイティビティ2019ユニットマスター

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

建築設計、空間デザイン、建築士の職能、リノベーション、ワークショップ

メールアドレス

shimizu-t@fukui-ut.ac.jp

主な研究と特徴

「Nimbus (ニンバス)：天と地のあいだ」(写真 1)

福井県勝山市にある磯崎新設計による元住宅のリノベーションを行い店舗としたスカーフ＆ライフスタイルショップNimbus (ニンバス)。既存の磯崎建築の強い形式性を持つ打放しコンクリート躯体（1050mmグリッドや天井ドーム）を「天」、その下での人の営みを「地」に見立てた。天と地の間でスカーフや雑貨達が、雲の様にふわふわと漂うような、やわらかい可変性を持つ臨機応変な商品展示（組み換え可能な大きなテーブル、吊りワイヤー用の壁に設置した丸環）を意図した。既存什器カウンターの塗り替え、床の張り替え、新たな什器の仕上げ等に、既存躯体とスカーフ等の商品が共存するよう表面のチューニングを行っている。打放しのパネル割りにも用いられた1050グリッドの写しとして什器寸法を設定した。天板表面にはスカーフを引き立たせ、かつコンクリート躯体も引き立たせる素材として、軽さと硬さを感じる、ホワイトとシルバーのメラミンを使用している。また人の手に触る、座る、身体的スケール感を感じる箇所には経年劣化しやすいラワンペニヤを用いた。硬いグレーのコンクリート壁と柔らかいタイルカーペットの床の間にあるカウンターの扉には、相反する質感を調停するスピーカーサランを用い、また対面に立つ大理石の壁の質感とも向き合うこととした。表面のチューニングを通じて、硬さと柔らかさが同居した建築を生み出すことを意図した。



写真2. 直径5mのストロードーム

写真1. Nimbus (ニンバス)：天と地のあいだ

今後の展望

一介の建築設計者から大学教員になり6年目となった。学生を指導する教育者であることはもちろん研究者でもあり、同時に建築設計者である。そして福井で生まれ育ち大学院まで過ごした福井人でもある。学生への教育、研究、建築、そして故郷福井への貢献を同時多発的に行っていくことが目標である。

具体的に、

- ・担当授業や清水研究室での卒業設計指導などを通した建築設計の重要性の訴求。
- ・コテトラワークショップ等の社会活動を通しての空間をつくる面白さを実感するための教育的社会活動。
- ・Nimbusなど受託研究を通しての設計活動による社会貢献と創造的な建築空間の実現。
- ・ふくい建築賞等の審査を通じた、建築を見る目の訴求と地域社会への貢献。

等による、創造的な建築活動を多様に行いたい所存である。

所属学会

公益財団法人 日本建築学会（2019～）

主要論文・著書

- 医療福祉建築賞2004：エンゼル病院
(富永謙・フォルムシステム設計研究所在籍時担当)
第14回福井市都市景観賞：毛矢町の家2006
新建築2012.8月号掲載：ガレージスペック武蔵小山
六本木アートナイト2015（東京都他主催）参加アーティスト
London International Creative Competition(LICC)2022
architecture部門 入賞(Shortlist)：ニンバス
Architecturephoto.net(2023.4.11号)掲載：ニンバス